

【構想文案】

9. レガシーの継承

大阪・関西万博への出展を一過性のイベントとして終わらせることなく、その記憶とともに万博閉会後もパビリオンの精神を後世に引き継ぐレガシーとして残していけるよう、今後の基本計画の策定作業においてハード・ソフトの両面について具体的な検討を進め、取り組んでまいります。

(1)ハードレガシー

ハードについては、その有効活用のあり方や活用主体、引き継ぎ方法などについて、基本計画策定と並行して検討整理します。

(2)ソフトレガシー

展示やイベント・催事で披露するコンテンツやノウハウ、パビリオン出展・運営体制や連携の枠組み、府民・市民の参加協力の仕組みや様々な体験、記録などについては、万博開催後の大阪の発展に寄与するものとなるよう取り組んでまいります。

【レガシー検討における取組み事例】

レガシーの対象		活用のあり方及び引継ぎ手法の例	
ハード	建物	恒久施設として活用	・万博後の活用を前提に事業者募集
		解体して別の場所に移設	・移設受入希望者（企業、大学、自治体ほか）募集
	展示物	建物とセットで活用	・万博後も建物とともに活用
		建物と分離して活用	・スポンサー企業等による引き取り活用（展示、体験ほか） ・万博メモリアル施設を国や協会等が残す場合に展示活用
イベント	企画内容	コンテンツ・ノウハウ	・民間主導で継続実施（引継ぎを想定した運営手法の導入）
	実施体制	枠組み・実施運営体制	・持続可能な体制を検討
記録	映像	記録映像	・万博アーカイブとしてデジタルデータを活用 （万博全体としての取組みと連携）